

1989年 11月10日

＜毎月10日発行＞

第125号 4頁 200円

定期購読料（送料込み）

半年 1500円、1年 3000円

旗 せつき 赫

共産主義者同盟中央機関紙

発行
赤路社

二面……三里塚他
三面……反天皇制闘争・東欧問題
四面……核・原子力問題

東京都下谷郵便局私書箱180号
（関西）大阪市港郵便局私書箱40号
郵便振替 東京 9-352128

日帝打倒・米帝一掃の旗掲げ

新「連合」の労働者統合粉碎へ



反対同盟先頭に体を張って闘い、政府・公団の労働者宿舎破壊の目論み打ち砕く（記事二面）

「全労協」発展の道拓くのに 再び民同政治でやるのか 革命的な政治でやるのか

地獄への道拓く総評賛美

まず、民同労働運動の破産の結
果としてある総評の解散を総括し
ておく。

この十一月十一日の新連合発足によって、わが国労働運
動の政治地図は大きく塗り替えられる。すなわち、総評・中立
労連・同盟という旧来の枠組みから、現代版産業革命の新一
連合」と、これに反対する統一労働者連合の発足、そして国
労・都労連を軸として総評労働運動の継承、発展をめざす全
協が十一月九日スタートし、帝国主義支配の枠内での新たな
闘争関係が始まる。われわれは、新「連合」による帝国主義的

労働者統合と動員を許さず、階級的労働運動の奔流の形成に全
力をあげなければならない。そのために革命的な左翼は、社共・
民同政治を明確な一線を画し、社会主義革命の旗印を鮮明に
し、資本・国家と真向うから対決する労働運動を独自につくり
出し、これを拠点に全協への存在を強めて、強固な階級的労働
運動の基礎を形成していかなければならないのである。

平和と民主主義闘争へと転換しな
がら、にも拘らず総評は改良主義
的闘争性を保持し、反戦平和の小
ブルジョア的労働運動の中核として機能
してきた。

協力をめざすのは反共行為であり、処
分問題にも発展していきたくらうし
なスローガン掲げる」という
具合である。

日共と民同左派の画策

こうした見地を以てはじめて
日共と民同左派の画策を
分析する必要がある。日共
は、全労協の発展を許さず、
統一労働者連合は、この八月
に「階級的ナショナルセン
ター」の旗を「たたかうナシ
ョナルセンター」に替えて全労連
準備会を設立させた。そこでは、
資本と政治からの独立、共通の要
求での行動の統一の二原則が掲げ
られ、差別全国組合と地方組織と
によって構成される全国中央組織
の結成がめざされている。それは
まさにも日本共産党の指導の下
で民族的、民主主義的要求に基
づいた国民運動建設の一環である
として着目しておかなければなら
ないのは、社会主義左派を射程に
入れた幅広いナショナルセンタ
ー結成をめざして、国労の清算事業
闘争などを媒介としながら、明
確に全労協の解体、吸収を策して
いることである。

まず第一に、全労協結成を呼び
かけた労働センター指導部は、岩
井、太田氏は言うまでもなく、十
月会議代表である市川氏までもが
「階級的ナショナルセンター」の結
成を主張してきた統一労働者連
合の指導もあり、一転して全
労連を組織して全協との共同闘
争に備えている」と、全労連への
共感を示している。

第二に、全労協はその準備会結
成大会で採択された「全国同志
へのアピール」で、「生活に根ざ
し、階級を基礎とした、大衆路線
の闘争を推進し、また、革新的な
労働運動を求めると共に、革新的
な労働運動を推進して組織するこ
とを、全労協は「反連合」であ
る。その命脈が歴史的に断た
れた社共、総評プロシカの再建を
めざすオール民同の政治性にあ
る」と宣言し、われわれは「し
かりと握っておかなければなら
ない。」

「連合」への参加、労働者全体の
統一への努力を積極的に行なうこ
とという中央本部指示を流した。
従って社共が全協に参加

十月会議指導部の 日和見主義

これは十月会議に対しても、社共・
民同と二線を画し、共に帝国主義
の政治支配と対決する真の階級的
労働運動の推進を主張し、同じ
様の主張を公然と述べてきた。

闘争日程

- 11・23 即位式・大嘗祭粉砕第一派闘争
正午・清水公園
- 午後五時半・日本教育会館ホール
- 12・2~3 象徴天皇制を問う
全国フォーラム
一日午後二時 三日前九時
豊島公会堂
- 12・16 事業認定二十年迎え撃つ
東京集会

核・原子力と現代帝国主義

荒木周造

「せめてアメリカ並みの規制を」

日本共産党の核・原子力問題に対する態度にも、これら政治本質は否応なく露呈する。かれらは編みで「人は、人類にとつて死活的に重要な緊急課題である核戦争阻止、核兵器の全面禁止・廃絶を要求し、諸国民と連携して核兵器全面禁止・廃絶の国際協定実現のためにたたかう。」「党は、原子力の軍事利用に反対し、自主・民主・公開の原子力平和利用三原則の厳守、安全優先の立場から原子力開発政策の根本的転換とその民主的規制を要求する。」(注(1))と述べている。つまり、かれらの基本態度は核兵器の廃絶、しかし、原子力発電の民主的規制下の推進というものに外ならない。

二、「放射性廃棄物をどう処理するか、この技術がまだ未確かなこと」三、「日本は人口過密な地域、美が隣接していること」(注(2))。四、「原子力発電自身か今後の研究に待つことがきわめて多い未完成の技術」(注(3))であることでも繰り返して強調する。

事実それが軽水炉であれ黒鉛減速炉であれ原子力炉は全て危険性をもち、大事故は避けられないことをスリーマイル島チェルノブイリの事例は裏証してきた。かつ、何万年もの間危険な放射能を放出する廃棄物はたまたま一方であり、処理方法をいまだ確立されていない状況にある。

今日、原子力発電設備体系が安全性に欠け、近い将来においてさえ安全性の確立が期待できない未完成の技術であるといつては過言でない。今日進行している原子力発電体系の廃止、現状の原発体系の延長上にある新規計画の破棄が「私は原発に反対していない。しかし現時点での原発の技術設備の質は安全の」

また、原子力の平和利用云々については全く新しい付け加えであり、かつ十七回大会への「綱領の一部改正」についての提案には含まれていない。注(2) 日本共産党「原発問題と原子力の将来」P75-81

注(3) 日本共産党「原発推進政策を転換せよ」P69

注(4) 毎日新聞89・10・5

注(5) 日共同前 P69-70

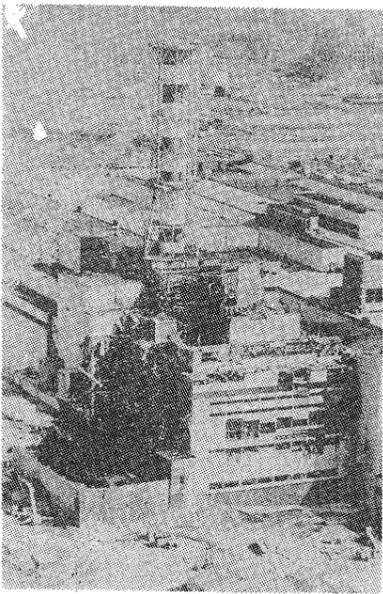
注(6) 同前 P83

注(7) 一九七三年「民主連合政府綱領」について日本共産党の提案

同提案には「電力、石炭、石油、原子力、ガスなどエネルギー産業の主要な大企業は国有化を主張されている。国有化は原発の危険性を解消するものでは全くない。逆に連、フランス、イギリスにおいて明らかになつて危険性を増加、拡大しかねないことは広く知られている。ここにも日共の原発の危険性を主張し、その廃止ではなく推進の姿勢が伺われる。

三 原発推進派としての日共

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。



大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

また、原子力の平和利用云々については全く新しい付け加えであり、かつ十七回大会への「綱領の一部改正」についての提案には含まれていない。注(2) 日本共産党「原発問題と原子力の将来」P75-81

注(3) 日本共産党「原発推進政策を転換せよ」P69

注(4) 毎日新聞89・10・5

注(5) 日共同前 P69-70

注(6) 同前 P83

注(7) 一九七三年「民主連合政府綱領」について日本共産党の提案

同提案には「電力、石炭、石油、原子力、ガスなどエネルギー産業の主要な大企業は国有化を主張されている。国有化は原発の危険性を解消するものでは全くない。逆に連、フランス、イギリスにおいて明らかになつて危険性を増加、拡大しかねないことは広く知られている。ここにも日共の原発の危険性を主張し、その廃止ではなく推進の姿勢が伺われる。

また、原子力の平和利用云々については全く新しい付け加えであり、かつ十七回大会への「綱領の一部改正」についての提案には含まれていない。注(2) 日本共産党「原発問題と原子力の将来」P75-81

注(3) 日本共産党「原発推進政策を転換せよ」P69

注(4) 毎日新聞89・10・5

注(5) 日共同前 P69-70

注(6) 同前 P83

注(7) 一九七三年「民主連合政府綱領」について日本共産党の提案

同提案には「電力、石炭、石油、原子力、ガスなどエネルギー産業の主要な大企業は国有化を主張されている。国有化は原発の危険性を解消するものでは全くない。逆に連、フランス、イギリスにおいて明らかになつて危険性を増加、拡大しかねないことは広く知られている。ここにも日共の原発の危険性を主張し、その廃止ではなく推進の姿勢が伺われる。

また、原子力の平和利用云々については全く新しい付け加えであり、かつ十七回大会への「綱領の一部改正」についての提案には含まれていない。注(2) 日本共産党「原発問題と原子力の将来」P75-81

注(3) 日本共産党「原発推進政策を転換せよ」P69

注(4) 毎日新聞89・10・5

注(5) 日共同前 P69-70

注(6) 同前 P83

注(7) 一九七三年「民主連合政府綱領」について日本共産党の提案

同提案には「電力、石炭、石油、原子力、ガスなどエネルギー産業の主要な大企業は国有化を主張されている。国有化は原発の危険性を解消するものでは全くない。逆に連、フランス、イギリスにおいて明らかになつて危険性を増加、拡大しかねないことは広く知られている。ここにも日共の原発の危険性を主張し、その廃止ではなく推進の姿勢が伺われる。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

目次

はじめに

一、現状のデッサン 第15号

二、歴史の点描 第15号

三、技術革新の第三の波 第15号

四、核と安保体制 第15号

五、自然、技術および生産と原子力

(1) 第79号

(2) 第114号

(3) 第114号

(4) 第115号

六、人道主義と日和見主義

(1) 「技術」批判の批判 第16号

(2) 「反省」佐野・山村論 第23号

(3) 「文の限界」 第23号

(4) 「原発推進派としての日共」(本号)

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。

大爆発後のチェルノブイリ原発。今は厚いコンクリート壁に蔽われている。しかし、死の灰はまだ何万年もの間有害な放射能を出し続ける。また、広範囲に飛び散った死の灰の汚染はいまも人々を苦しめ、自然をさいなんでいる。チェルノブイリは終わった訳ではない。